

ひばりん 放課後等デイサービス 支援プログラム

○事業所理念及び支援方針

- ・学びの支援を通して、子どもたちに生きる力を育てます。
- ・子どもたちが安心して過ごせる場を提供します。
- ・一人一人の子どもが自立した生活を送ることができるよう、保護者と連携して支援していきます。

○サービス提供時間

サービス提供日	月曜日から土曜日まで（ただし、国民の祝日、8月13日14日、12月29日から1月3日までを除く）	
サービス提供時間	【A時間帯】 ・小学生 ・特別支援学級または特別支援学校に在籍している中学生と高校生	月～金曜日 放課後から午後5時30分まで 土曜日・学校休業日 午前8時30分から午前12時まで
	【B時間帯】 ・中学生 ・高校生	月～金曜日 午後5時30分から午後7時30分まで 土曜日・学校休業日 午前12時から午後3時30分まで

○送迎サービス

A時間帯の利用者を対象に送迎サービスを提供しています。厚別区、白石区の一部、清田区の一部を送迎範囲としています。送迎範囲内であっても利用曜日や送迎場所によって送迎車の配車ができないことがあります。詳しくはお問合せください。

○本人支援の内容

ここでは放課後等デイサービスガイドラインに明記されている「健康・生活」「運動・感覚」「認知・行動」「言語・コミュニケーション」「人間関係・社会性」の5領域に沿って、ひばりんの放課後等デイサービスにおける本人支援の内容を紹介します。

【健康・生活】

健康状態の把握	恒常的な健康状態のチェックを行っています。本人から体調不良の意思表示ができるよう日頃から働きかけ、意思表示が困難な子どもについては、その特性に配慮して小さなサインから心身の変化に気付けるように観察したり、必要に応じて意思表示のツールを作成します。
---------	---

生活リズム	ひばりんでの活動に取り組む中で、睡眠不足、食事習慣の乱れが一因となって集中が続かないことがあります。そうしたときには、本人と保護者に聞き取りや助言を行い、その後の経過を確認する等、生活リズムの改善に向けて相談支援を実施します。
基本的な生活習慣	来所時には必ず手洗いをさせることで健康の維持に努めています。保護者と相談の上で、トイレで失敗がある子どもへの声かけや見守り等のトイレ支援も実施します。
整理整頓	学習支援の中で、配布したプリントのファイリング、机上の整頓を行います。身の回りの整理整頓は、落ち着いた環境で集中して活動に取り組むために非常に重要です。低年齢ではプリントをそろえる、折る、パンチで穴をあけるといった動作が運動の精緻さの向上にも繋がり、中学生・高校生では整理整頓の習慣を身に付けることがタスク管理の基盤となります。
タスク管理	主に中学生・高校生を対象として、学校の提出物・課題・テスト勉強などの有無を把握して、必要に応じてスケジュールを作ったり、家庭でできることと放課後等デイサービスの時間の中で行うことを整理します。先を見通して、優先順位を考えながら、自立してやるべきことの管理ができるように支援していきます。
買い物	自立した生活が課題となる子どもには、買い物支援を行っています。近隣のスーパーへ行って実際に買い物をすることを通して、商品を選ぶ、代金に応じてお金を出す、店員さんとの関わり方等を学習していきます。
公共交通機関の利用	自立した生活が課題となる子どもには、公共交通機関を使った通所を提案しています。保護者と連携し、ひばりんの職員が最寄りの駅等へのお迎えをして、事業所への付き添いを実施します。最終的には一人で事業所へ通うことを目指します。

【運動・感覚】

学習道具	えんぴつの正しい持ち方や消しゴムの使い方を支援します。なぞりや視写を通して、手先の精緻さや、見ることと書くことの協調運動の向上を目指します。また、手先が不器用な子どもはコンパスや定規を使うことに苦手さがあります。まわしやすいコンパスやすべらない定規を使って練習に取り組むことで苦手さを克服していきます。眼球運動に関連して読むことに苦手さがある子どもには、リーディングスケールを使って、読んでいる文にしっかりと注意が向くように支援しています。また通常の教科書や学習プリントでは、その子どもの特性によって、文字が小さかったり、書くスペースが足りなかったりすることがあります。特性に応じて、拡大したプリントに取り組ませたり、マス目や罫線のあるノートを用意して支援しています。
------	--

環境設定	周囲の音や物に反応してしまい集中が途切れやすい子に対しては、人員や物の配置を工夫して取り組んだり、通常の部屋とは別の部屋に移って取り組むこともあります。
様々な工作	日頃の遊びの中で、おりがみやペーパークラフトに取り組んでいます。行事の中では、クリスマスのリースとツリー製作、紙版画、スパッタリング等の技法を使った絵画製作に取り組んでいます。こうした活動を通して、視覚や触覚を活用して、楽しく手先を動かすことを目指しています。

【認知・行動】

具体物による支援	学習支援の中で、プリントの情報が難しいときには、具体物を用意して支援しています。例えば、ブロックを使った数量の学習、色板や立体を使った形の学習、お金や時計を使った学習があります。
視覚的な支援	学習支援の中で、文章の読み取りや言葉による説明が理解しづらいことが多くあります。そうした際には、文章や説明の内容を絵や図や表に置き換えて、視覚的に理解しやすいように支援します。算数（数学）では、計算の仕方がなかなか定着できないときに、書く場所や計算する順序等をカラーペンで示してあげることで視覚的な理解を促し定着を目指しています。ひらがな等の練習で、マス目のどこからどこまで線を書くかをなかなか理解しにくい子どもには、カラーマスノートを使って支援していきます。
スモールステップ	学習支援の中で、問題がたくさんあることに抵抗感を持つ子どもがいます。そうした子どもには、白紙に1問ずつ課題を書いてあげることで、気持ちを落ち着けて取り組むことができます。本人の理解の程度を見取り、少しずつ難しい問題を提示して解決することで、「できた」という達成感も感じることができます。
動作化	学習支援の中で、人物の心情が想像できなかつたり、言葉のイメージができないときには、その動きやせりふの真似をして理解を深めています。動作化を行うことで、どのような気持ちなのかを体験的に考えることができます。
行動の切り替え	ひばりんでは学習と遊びの時間があります。あらかじめ本人と一緒に時間を決めたり、時間を意識できるように声かけをしています。また、静かにする場面、みんなと行動する場面等、まわりの状況を見て行動できるように働きかけています。気持ちの切り替えが苦手な子どもには、あらかじめ見通しを持たせる関わりをしています。
自己肯定感を高める関わり	自信を失くすと、苦手なことや新しいことに取り組むのが嫌になり、また自信を失くしてしまうという悪循環を生みます。ひばりんでは、スモールステップで本人の力に見合った課題を設定したり、取り組もうとする姿勢自体を褒めたりすることで、自己肯定感を高める関わりを行っています。

認知の偏りや不適応行動への対応	認知の偏りとは「完璧でなければ意味がない」「一度失敗したから次も絶対に失敗する」「悪いことの原因はすべてあの人のせいだ」といった極端な物事の受け取り方のことです。不適応行動とは、癩癩、パニック、行きしぶりなど集団生活を送る上で不適応を起こしている状態を言います。ひばりんではこうした認知や行動を軽減していくために、本人との対話を大切にして、不適応行動を起こさない方法を一緒に考えたり、よりよい考えや行動がみられたときにフィードバックすることで支援しています。
-----------------	---

【言語・コミュニケーション】

日記	ひばりんでは日記に取り組んでいます。その日にあったことを思い出して数行の日記を書きます。その子どもに合わせて、正しい字形と文章で日記が書けるように支援しています。日記を書くことが苦手な子に対しては、指導員と話し合うことで書くことを一緒に考えます。
音読	学習支援では音読を重視しています。上手に音読ができるようになることで、ひらがなや漢字、言葉のまとまりやその意味、文の流れやリズムなどの要素を理解していくことに繋がります。また、文章を目で追い、声に出し、自分の耳で聞くという複数の感覚や能力を向上させる活動でもあります。音読をするのが苦手な子どもには、リーディングスケール、文を指で追う、文節や言葉のまとまりにスラッシュを引く、指導員との交互読みといった支援を行っています。
言葉の遅れや吃音等への関わり	ひばりんでは通級教室の実践を参考にして、言葉の遅れや吃音がある子どもの発語発話に対して訂正的に関わるのではなく、話すことが楽しくなるように肯定的に関わることを基本としています。自然とたくさん話せる雰囲気づくりに努めています。
教え合い	ひばりんでは子ども同士の教え合いを促すことがあります。自分が既に習得した知識や技能を正しく相手に伝えることがコミュニケーションの練習になります。
言葉による表現	指導員との学習や友達との遊びの中で、言葉による表現が苦手な子どもは、自分の気持ちを表情や態度や行動で表現します。ひばりんでは、そうした非言語的なサインをよく観察することで、気持ちを理解して、本人と対話するようにしています。その上で、言葉によって適切な表現ができるように働きかけていきます。

【人間関係・社会性】

遊び	ひばりんではトランプやかるたなど複数人での遊びに取り組んでいます。順番を待つ、ずるいことをしない、負けても怒らないといった社会的なルールを身に付けることで、こうした遊びをみんなで楽しむことができます。また、友達
----	---

	と円滑に関係を築いていくための関わり方も学ぶことができます。指導員は実際に遊びに参加したり、見守る中で支援を行っています。
クリスマス販売	クリスマスの時期に製作物の販売会を行っています。人と関わることを苦手としている子どもの中には、指導員や友達とは話せるようになったけれど、それ以外の人とは話せないといったことがあります。クリスマス販売では、接客を通して、お客さんという知らない人に対して礼儀正しく適切に接することを学んでいきます。また、製作物の販売は、仕事をして対価を得ることを体験的に学ぶことでもあります。他にも、お金の計算など様々な力を伸ばす活動といえます。
現地学習	防災施設や科学館など、その年によって行先を変えて現地学習を行っています。公共施設のルールやマナーを守ったり、時間を考えて集団で行動したり、飲食店での注文会計の仕方を学んだり、社会性を身に付ける行事です。
職場実習	障害者枠での就職や福祉就労を視野に入れている子どもを対象として、衣料品店であるユニクロと連携をして、職場実習を実施させてもらっています。実習の内容は、掃除やバックヤードでの商品整理です。担当者の方に説明してもらった業務に正しく取り組めるように支援します。実習前には本人と一緒にその子どもに合わせた目標を決めて、実習後にはその振り返りを行っています。実習は2回行い、1回目の反省を生かして2回目の活動を行います。

○保育所等訪問支援

障害児通所支援には、児童発達支援、放課後等デイサービス、保育所等訪問支援の3つのサービスがあります。ひばりんでは放課後等デイサービスの他に保育所等訪問支援も実施しています。週1回2時間程、学校の教室で支援をします（不登校の場合、学校内の別室への登校を促しそこで支援をすることもあります）。ひばりんの利用者の中には、学校の授業において、全体指示を聞いたり、授業の流れに沿って活動したり、グループに参加したりすることが苦手な子がいます。保育所等訪問支援では、訪問支援員が担任の先生の指示や授業の流れを受けて、個別に利用者へ直接働きかけることで、授業及び集団への適応を目指していきます。また、担任の先生と訪問支援員の間で、成長や困りなど本人の状況、効果的な支援方法などを相互に情報共有することで、連携を強くしてそれぞれの支援の質を向上させていくことができるという間接的な効果もあります。実施の条件としては、ひばりんの放課後等デイサービスを利用していること、学校において適応に関連した困りがあること、本人が同意していることなどがあります。その上で訪問先の学校の許可も必要となります。ひばりんのスタッフは、管理者、児童発達支援管理責任者、児童指導員とそのほとんどが退職した教員で構成されています。学校で働き長年授業をしてきたからこそ、適切な支援と学校連携が可能となっています。

○家族支援の内容

家族への支援として相談支援を行っています。1年に1回、面談の機会を設けて実施しています。また保護者からの要望があればいつでも面談や電話相談に対応します。ひばりんではただ話して終わる相談支援にならないように、具体的な解決策と一緒に考えていきます。相談の内容は多岐にわたります。

家庭での困りについては、本人の特性を踏まえて家庭で取り組んでいくとよいことをアドバイスしたり、できる範囲でひばりんの本人支援の中で同じような課題を設定して取り組んでいきます。学校での困りであれば、学校に求めることのできる合理的配慮について助言したり、学校と情報共有を行って学校とひばりんと家庭の三者で役割分担の意識をもって課題解決に進んでいけるようにコーディネートします。また、そうした中で保育所等訪問支援の利用を検討していくケースもあります。学級転籍や進学で悩んでいる場合には、状況をよく把握するために必要に応じて学校と情報共有しながら、これまでのひばりんの支援の蓄積から適切な情報を提供して、本人及び保護者の意思決定をサポートします。困りの内容によっては、他のサービスや他の機関へと繋げていくこともあります。

○移行支援の内容

・進学へ向けた移行支援

小学校、中学校、高等学校とそれぞれの移行期で支援を行っています。小学校入学段階では、本人の学校での困りを受けて放課後等デイサービスの本人支援を計画して、学校生活で必要なスキルや社会性の習得を目指します。中学校進学は教科担任制になる、定期テストがある、課題の提出が増える等、様々な変化を伴います。B時間帯の中高生の学習支援は、実際に学校の教科書やワークブック、課題を使って行います。学習支援と合わせて、提出日をメモする、スケジュールを作る、優先順位を考えるといったタスク管理の力が付くように支援しています。受験の時期には、試験の内容を受けて学習支援、面接練習、作文練習などを行います。進路に関する相談も受け付けています。進路相談の主たる相談窓口は学校ですが、ひばりんでもこれまでの相談の蓄積から本人及び保護者の意思決定をサポートしていきます。

・学級転籍の移行支援

いわゆるグレーゾーンといわれる子どもたちにおいては、通常の学級か特別支援学級かどちらを選択するとよいのか（転籍すべきなのか）を悩まれているご家族も多いと思います。最終的な決定をするのは本人及び保護者です。ひばりんではこれまでの相談の蓄積から、適切な情報提供を行います。現在の困り、本人の気持ち、将来の希望など状況を多角的に捉え、さらに必要に応じて学校と連携しながら意思決定をサポートしていきます。

・放課後児童クラブ、学習塾、習い事等の地域の活動への移行支援

支援をしている中で利用者のさまざまな能力が成長していった結果として放課後等デイサービスを利用しなくてもよい段階に至ることがあります。またそれに伴って本人が放課後等デイサービスの利用を嫌がるケースがあります（サービスを拒否することが、成長段階の表れなのか、単なる渋りなのかは見極める必要があります）。そうした成長段階にある利用者については、保護者への相談支援の中で、障害児支援ではない地域の活動（放課後児童クラブ、学習塾、習い事等）への移行を提案します。保護者の意向を踏まえて、すぐにサービスを終了するのではなく、ひばりんの利用日数を減らして地域の活動を利用し始める等、柔軟に対応していきます。また、地域の活動に適応できるかが不安だという場合に保護者の要望があれば、移行先（放課後児童クラブ、学習塾、習い事等）に対して、本人の特性や支援方法等の情報を引き継ぐこともできます。障害児支援から地域の活動への移行を後押しすることを通し

て、障害がある子どもが過ごしやすい社会となることを目指しています。

○地域連携の内容

状況に応じて、学校、通級教室、保育園及び幼稚園、相談支援事業所、他の障害児通所支援事業所、児童相談所、医療機関、ペアレントメンター事業、フリースクールなど様々な機関と連携していきます。必要があればケース会議を実施する場合があります。特に学校とは積極的に連携を図って情報を共有しています。情報を共有することで、より深い本人理解や支援方法の向上へと繋げています。

○職員の質の向上に資する取り組み

ひばりんでは退職した教員を多く雇用しています。また毎日、前日に利用した全ての子どもについて、支援の様子と支援方法とその効果について話し合っています。もともと高い学習支援の力量をもった職員が、様々な障害特性に対する支援方法について日々検討することで、質の高い本人支援を目指しています。また、ひばりん独自に特別支援教育や障害児支援の専門家から成る委員を組織して、1年に1回事業所評価を実施しています。外部の専門家からの評価を事業所の取り組みや本人支援の内容に活かして事業改善を行っています。さらに、虐待防止や災害対策などの研修を行うことで、安全な事業運営を目指しています。

○主な行事等

- ・現地学習…A 時間帯の利用者を対象に、夏季休業中に実施しています。
- ・クリスマス販売会…A 時間帯の利用者を対象に、冬季休業中に実施しています。
- ・職場実習…障害者雇用枠での就職や福祉就労を目指している子どもを対象として実施しています。